

美術学習指導案

指導者 重本 優紀

日時 令和3年5月11日(火) 第5校時(15:05~15:55)
年組 中学校第1学年2組 計40名(男子17名, 女子23名)
場所 中学校美術教室
題材 新聞から見つける文字のデザイン

題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)美術第1学年の内容B鑑賞(1)イ(ア)に重点をおいて指導を行う。新聞に使われている文字を鑑賞し、そのデザインの形や色彩に視点を置いて特徴を捉え、よさや美しさを感じ取り話し合う活動を通して、見方や感じ方を深めることを目的として設定した。

新聞は身近にある文字を使った情報伝達の道具であり、文字の形や色彩が内容に合わせて工夫されている。そのため、使われている文字の特徴を抜き出したり、比較したりする活動を通して、文字の形や色彩に視点を置いて生活を美しく豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を広げることができる。また1学年では、題材「文字で楽しく伝える」において、自分で文字のデザインをする表現活動を行う。その際、自分の表現意図を効果的に伝える工夫を考えるためのヒントとなる鑑賞活動である。

生徒は「デザインとは何か」を知る初めの学習である。本学級の生徒は、学級討議の様子では自分の意見や考えを積極的に伝えようとする生徒が多く、相手のことをよく知りたいという思いが強い様子が見られる。生徒が相手の見方や感じ方を尊重しつつ、それぞれの思いや考えを共有し、美術的な視点をもって考えを広げる力を身につけさせたい。また、学級目標のデザイン案を見ると、文字を太くしたり、筆文字のように描いたり、文字を囲んで強調したりする工夫が見られ、伝えるための文字に興味があると思われる。身近な場所で楽しく主体的に文字のデザインと関わろうとする態度を養いたい。

指導にあたっては、一人一枚新聞を配付して文字を抜き出せるようにし、班で交流する際にできるだけ多様な文字について共有できるようにする。そうすることで、生徒がさまざまな見方や感じ方に触れられるようにしたい。知識・技能にあたる形や色彩、構成に関わる要素はまだ学習していないため、導入において書体の比較をすることで形や色彩が人に与える効果について意識させる。思考・判断・表現について、形や色彩に視点を置くことを示し、生徒が感じたことや考えたことを具体的に説明できるようにする。また、今後の学習につながる内容として、教科書には、「印刷物の本文などで広く使われている明朝体」と「印刷物の見出しなど、強調したい部分に使われるゴシック体」が紹介されている。新聞には見出しにさまざまな文字が使われており、その違いや共通点に気づくことで文字の形の効果がより実感できるようにしたい。

指導目標

1. 文字の形や色彩、構成などが見る人に与える効果について理解する。
2. デザインされた文字から、伝達の効果と美しさなどを感じ取り、伝えたい意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。
3. 身近にある文字に注目して、込められた表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に楽しく取り組む。

指導計画

1. 新聞から見つける文字のデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

本時の目標

文字の形や色彩に注目して、デザインの効果や美しさについて具体的に説明することができる。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 導入（10分） □文字を比較して形から受ける印象について考える。	○書体の違う文字を比較させ、感じ方の違いを一般化できるようにする。 (例) やわらかい感じとかたい感じ 現代的な感じと伝統的な感じ
【課題】 新聞の中にある印象的な文字を切り抜き、なぜその文字が印象的なのか見つけよう。	
2. 展開（35分） □新聞から印象的な文字を切り抜き、ワークシートにその特徴を書き出す。 □班で意見を交流し、それぞれが選んだ文字が見る人にどのような効果を与えるかを考える。 □全体で意見を交流する。 □自分や班員が選んだ文字が紙面の中でどのような場所に使われているかを確認し、デザインされた文字の効果について考える。 □班で、文字がデザインによってどのように使分けられているかについて話し合う。	○文字の太さや色彩などの特徴に注目できるようにことばかけをする。 ◆自分なりの視点をもって文字を選ぼうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○個人の意見から、さまざまな視点を共有できるようにする。 ◆文字の形や色彩に視点を置いて文字の効果や美しさについて説明できている。 【思考・判断・表現】 ○班の意見を全体で共有し、考えたことや理解したことを確認できるようにする。 ○文字のデザインによって、見る人にどのような効果を与えるか、どのような役割をしているかについて具体的に気づけるようにする。 ◆文字の形や色彩が見る人に与える効果についてまとめることができている。 【知識・技能】
3. まとめ（5分） □自己評価表に、文字のデザインについて考えたことについてまとめる。 □次時の学習内容を確認する。	○学習した内容を踏まえて、自己評価表に振り返りができるようにする。 ○文字のデザインではレタリングやオリジナルの文字をつくっていくことを確認する。

授業の分析

本題材では、生徒がより主体的に取り組むための身近なデザインの素材として、新聞の文字デザインを用いて鑑賞を行った。

その成果として、新聞の中にあるどの文字のデザインを選ぶかは生徒一人一人違い、様々な要素の工夫がある文字のデザインに触れさせることができた。生徒は主体的に文字を選び取り、そのよさや美しさを自分なりに感じ取ろうとしていた。また、身近な新聞で使用されている文字であることや、新聞の中に宣伝として掲載されている商品などのロゴデザインを見ることで、生活の中にはたくさんの文字があり、その文字のデザインには、読みやすさや人の目を引き付けるなどの工夫があるということに気づかせることができた。形や色彩の工夫をすることで見る人や読む人のことを考えたデザインになるということがわかると、今後の授業で学習する明朝体やゴシック体の特徴を知ったり、絵文字を制作したりする際に、より実感をもって形や色彩を意識して取り組ませることができると考えられる。

課題としては、生徒はまだどのような形や色彩がよりよいデザインにつながるのかという、具体的な実感を伴って考えを深めたり制作に結びつけたりするところまで学びが至っていないことが挙げられる。選び取った文字を「なぜ選んだのか」説明できるようになったり、自分が見て感じたことを「なぜそう思うのか」根拠をもとに考えられるようになったりするためには、さらに問いを投げかけて、生徒の思考をつなげたり深めたりする時間を設定する必要がある。また、生徒がデザインに関する見方や感じ方を深めるためには、デザインの考え方を意識させる説明が必要であったと思われる。「デザインをする」ということが、他者意識がある目的表現であること、客観的に相手に伝える必要があることを意識すれば、より具体的に文字のよさや工夫に気づくことができ、感じたことや考えたことに根拠が生まれて表現しやすくなる。

以上のことから、生活や社会の中に身近に存在するデザインのよさや美しさについて、主体的に学ぶ態度を育むための素材として、新聞を活用することは有効であった。美術としての価値づけができる知識として学びを定着させるために、今後の授業の中で、デザインの考え方を深めたり、「なぜ」という問いに向き合ったりできるような工夫をしていきたい。